

玉嶋 血液内科・漢方診療所

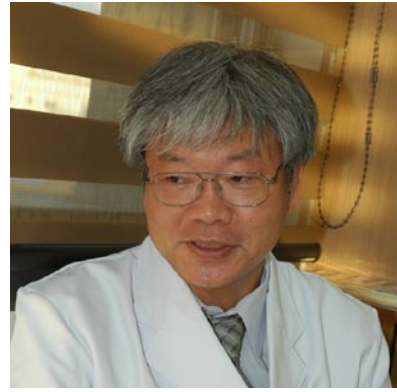
静岡県浜松市中区住吉1-24-1 NTT住吉ビル4F
TEL.053-412-0100 FAX.053-412-0101
http://www.ketsuekinaika.com

対談 院長 玉嶋 貞宏 × インタビュアー 藤波 辰爾
【ドラディション・プロレスリング】



INTERVIEW
SADAHIRO TAMASHIMA × TATSUMI FUJINAMI

様々な角度から症状を把握し、漢方との併用も踏まえた治療に取り組みます



を持つ総合病院と連携しています。

藤波 どのような患者さんが対象ですか。

玉嶋 血液の量が増減するといった良性疾患と、血液のガン——いわゆる白血病や悪性リンパ腫といった悪性疾患に大きく分けられます。総合病院との連携において申し上げますと、例えば良性・悪性を問わず、血液疾患の内服治療や治療を終えた患者さんの、その後の経過を診る役割を担うとお考え頂ければよいかと。

藤波 なるほど。では、漢方を取り入れているのは、どのような背景からでしょうか。

玉嶋 最近は統合医療として積極的に東洋医学を取り入れているところも増えました。私はいくまでも西洋医学的な検査で科学的に治療方針を探ることから始めます。しかし病気の原因がつかめないまま患者さんが不調を訴え続けるケースもあり、その際は漢方を取り入れるようにしています。最初から漢方で対処すると、かえって治療が遅れてしまうこともあり得るからです。

藤波 そうしますと、がん治療でも漢方を用いることがあるのですか。

玉嶋 はい。血液悪性腫瘍も含まれますが、がんも漢方は相性が良いと思います。例えば、再発を心配する患者さんは、ちょっとした身体の変化を再発に結び付けがちです。人間の体は西洋医学で説明できないことがたくさん起こりますが、主治医は西洋医学的な検査を行なって異常がなければ「心配することはありません」と言います。確かにそうなのではと思うが、たとえ症状が続いて主治医に再度訴えても、安心できる返答はそれほど多くないでしょう。時には「気のせ

いだ」と言われるかも知れません。患者さんはそれ以上、症状を訴えることはしなくなるでしょう。そんな中、漢方は患者さんの訴える多くの愁訴に対応でき、そうすることで患者さんも安心して症状を訴えることができるようになります。また、最近ではがん治療に対するエビデンスが重視されること

が多く、場合によっては治療の見込みがな

いことを宣告されます。もちろん終末期の

がんを漢方で治すのは難しいことだと思

ますが、ここでも漢方には重要な役割があ

ります。もちろん患者さんの訴える症状に

られるケースもありますから、特に待合室

は広いスペースを確保したつもりです。

藤波 スタッフは何名おられるのでしょうか。

玉嶋 現在は聖隷浜松病院と一緒に診療に当たっていた優秀な大谷医師との二人体制ですが、近い将来、非常勤の先生をお願いしたいと思っています。スタッフは臨床検査技師が一人、看護師が一人、受付が二人です。

藤波 大谷医師は女性だそうですね。さて、開院されたばかりで、ご多忙の日々かと思いますが、最後に将来への展望を一言。

玉嶋 休日も何かと忙しいですが、自分の診療所を構えてやりたいことを思う存分できる現状には満足しています。それだけに「ゆっくり時間を掛けて患者さんのために貢献する」との思いを持ち続けながら診療に当たり、まずは浜松で根付いていければと思っています。そして血液内科に限らず医師として生涯現役を全うしたいですね。

藤波 多くの患者さんを中心に元気にして差し上げて下さい。私も期待しています。

①INFORMATION

地域の頼れる存在として邁進します！



左から2人目が大谷知穂ドクター